

令和 6 年度

うるま市の補助金等に関する審査結果について

令和 6 年 1 0 月

うるま市補助金審査委員会

目 次

第1 本市の補助金事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
--------------------------------	---

第2 審査の対象と方法・・・・・・・・・・・・・・・・	2
審査の対象	
審査方法	

第3 審査結果概要・・・・・・・・・・・・・・・・	5
総括	
総合評価内訳	

第4 個別審査結果・・・・・・・・・・・・・・・・	8
---------------------------	---

◇ 付属資料・・・・・・・・・・・・・・・・	14
------------------------	----

第 1 本市の補助金事業の概要

【補助金審査の対象項目について】

『うるま市補助金制度に関する指針』において、下記に掲げるものを「補助金等」として定義している。

【補助金】

特定の事業、研究等を育成、助長するために地方公共団体が公益上必要があると認めた場合に反対給付を求めずに支出するもの。

【交付金】

法令又は条令、規則等により、団体あるいは組合等に対して地方公共団体の事務を委託している場合において当該事務処理の報償として支出するもの。

【負担金】

法令又は契約等によって地方公共団体が負担することとなるもの。

【利子補給金】

資金の融通を受けて行う事務や事業の助成、育成のために資金の融通を行う者に対して当該融通資金に係る利息の全部又は一部に相当する額を給付するもの。

令和 5 年度 一般会計当初予算（約 689 億 6,700 万円）

	件数	金額	一般会計に 占める割合
補助金	144	約 31 億 3,000 万	4.54%
交付金	5	約 1,700 万	0.02%
負担金	403	約 90 億 8,200 万	13.17%
合 計	554	約 122 億 2,900 万	17.73%

第2 審査の対象と方法

1 審査の対象・・・・・・・・・・・・・・・・

過去の補助金審査委員会にて、C 評価（効率化・コスト削減の方向で）、D 評価（縮小・廃止を前提とした見直し）と評価された補助金事業を中心に、6 件の補助金を対象に審査した。

【選定補助金・選定理由】

①うるま市民生委員児童委員協議会補助金

地域福祉を推進するために、当該補助金が果たす役割や取り組み内容について検証するため。

②うるま市畜産共進会運営補助金

長期間にわたる団体補助であり、その成果等について検証するため。

③うるま市観光物産協会運営補助金

長期間にわたる団体補助であり、その成果等について検証するため。

④うるま市観光物産協会事業補助金

長期間にわたる団体補助であり、その成果等について検証するため。

⑤うるま市老人クラブ活動促進補助金

今後、高齢者人口が増える中で、当該団体（事業）が果たす役割や取り組み内容について検証するため。

⑥うるま市与勝地下ダム土地改良区補助金

農業の活性化に向けて、当該補助金が果たす役割や取り組み内容について検証するため。

2 審査方法・・・・・・・・・・・・・・・・

審査結果を令和7年度の予算編成に反映させるため、10月までに審査を終えることとした。

審査は個別の補助金等について、事前に補助金評価シート、事業報告書、決算書等の資料の提出を求め、担当部署ごとにヒアリングを実施し以下の要領で行った。

- (1) 「うるま市補助金制度に関する指針」に定める交付基準（1. 事業の公共性（目的）、2. 事業の効果性（有効性・効率性・適時性）、3. 団体等の適格性など）を踏まえ評価を行い、見直し基準により方向性を判断する。

【見直し基準】

見直し基準については、①補助金額②補助金事業の取組内容（改善項目）の2つの

視点での評価を行う。

1. 『補助金額』の評価の基準

『拡充』

- ① 事業そのものに発展性などが見られ、将来的においても必要であるもの。
- ② 事業効果が広く市民に波及するもの。
- ③ 行政と市民との役割分担の中で、補助すべき事業・活動。

『現状維持』

- ① 法令等により補助の実施が義務付けられているもの。
- ② 国、県の補助金を財源の一部とする補助金で、市の負担が義務的であるもの。
- ③ 補助金交付基準に概ね適合し、補助の必要性が認められるもの。

『削減』

- ① 市が直接実施しなければならない事業等を団体等が行っているものに対し補助している場合などで、その支出科目について見直し（委託料、報償費等）を行う必要があるもの。
- ② 補助金交付基準により補助の必要性は認められるが、類似の補助（委託）があるため整理・統合により効果があがるもの。
- ③ 事業内容・経費・効果等が不明確で改善が必要であるもの。
- ④ 既存の団体運営経費に対する補助で、自主・自立の運営努力が必要なもの。
- ⑤ 特定の割合に応じて交付する分担金・負担金等について、負担額及び負担率、事業内容の見直しが必要であるもの。

『廃止』

- ① 施策の浸透、普及等により補助目的が達成されたもの。
- ② 社会情勢等の変化により、補助の目的・視点・内容が適切でなくなり、事業効果が薄れているもの
- ③ 補助の目的が十分達成されていないなど事業効果が乏しいものや事業目的が曖昧になっているもの。
- ④ 明らかに自立が認められる団体であるため、交付対象からはずすべきもの。
- ⑤ 補助金交付基準に適合していないと思われる事業又は団体等に対して補助するもの。

『再検討』

- ① ゼロベースで補助金の在り方を検討すべきもの。

2. 補助金事業の取り組み内容（改善項目）の評価

行政の役割や補助金交付先の取り組み内容等について評価する。

- (2) 上記審査に基づき、委員会としての 1.補助金額の評価（拡充、現状維持、削減、廃止、再検討）、2.取り組み内容（改善項目）の評価を決定し、その理由や意見、見直しの方向性等を取りまとめる。
- (3) 審査対象補助金 1 件あたり 90 分を目途に審査を実施。担当課からの概要説明を 10 分、ヒアリングを 45 分、委員審議を 35 分として審査。

第3 審査結果概要

1 総 括

うるま市における補助金等のあり方について、市民目線で審査を行うために当委員会が設置され、今回で15回目の審査となった。市民の立場から補助金等を確認していくことは行政改革として大変重要なことであり、補助金等が設定された趣旨や、時代の流れの中で本当に相応しいのか、常に検証していく必要がある。

今回、委員会で選定した6件の補助金について、担当課の補助金評価シートを基にヒアリングを行い、「うるま市補助金制度に関する指針（令和6年3月改訂）」に基づいて「本当に必要な補助金か」「額は妥当か」「運営上の課題はないか」等の視点から審査を行った。審査の結果として、まず始めに総括的な指摘事項として以下のとおり提言する。

（1）市（担当課）と補助金交付先（団体）との関わり、連携について

今回の補助金審査において、補助金交付先との関わりや連携が不足しているものや担当課における補助金交付団体に対する適切な指導、助言が行われていないと感じる補助金が見受けられた。

補助金は、行政目的をもって交付されることから、市として主体的に補助金交付先へ関わり、成果の検証や目標達成に向けての取り組みを共有し、さらなる成果向上に繋がるように連携を図っていくべきである。

（2）成果指標の設定について

成果指標の設定については、しっかりと精査した上で具体的な成果が図れるような成果指標を検討していただきたい。補助金の内容により困難なものがあることは理解するが、成果の数値として定量的に表せるものでなければ、事業として抱える問題や課題が見えてこない。できる限り本質を捉えた指標を設定することを意識していただきたい。

（3）補助金審査フォローアップ調査について

令和6年度の補助金審査と並行して、令和5年度補助金審査においてC評価・D評価と判定された4件の補助金について、その後の取り組み状況を確認するためのフォローアップ調査を実施した。

『市体育協会補助金』

新たな専門部設置の検討や組織体制の見直しなど、審査委員会の意見を踏まえた取り組みをしていることは、評価できる。年会費については、各種目団体の代表から納めてもらうなど、体育協会の運営がうまくいく形を引き続き検討いただきたい。

『文化協会補助金』

新たな取り組みとして「わくわく文化体験教室」や「学校アウトリーチ」など、学校の子ども達に参加させる機会を増やしており、方向性は良い。文化協会から講師を派遣することも良いが、琉球舞踊や組踊など、子ども達に文化継承を目的として活動しているプロの方もいるのでそこも検討していただきたい。

行政側の活動が増えていることは評価できることであり、今後は、文化協会をどう巻き込んでいくか、文化協会主体での文化振興をどう進めていくかなど、引き続き文化振興に繋がる取り組みを文化協会と共に考えていただきたい。

『うるま祭り事業補助金』

祭り全体の在り方を検討する中で、今年度「エイサー祭り」について、青年会が主体となつてのボランティア活動や、開催場所を変えて道ジュネーにするなど、新たな取り組みは評価できる。動画配信数についても 5.9 万人と前回は上回る視聴者数があり、市外への PR がうまくいっていると感じる。引き続き市民が担っていく祭りとなるように、外部委託等の効果検証も行いながら取り組んでいただきたい。

『自治会運営振興補助金』

「本来の自治会が持つ役割」や「事務委託としての役割」について整理し、説明を実施することは重要であり、市および自治会の両方が認識を持つ必要があることから引き続き進めていただきたい。

3 年目職員を対象とした自治会フィールドワーク研修や市長の自治会訪問などの取り組みを実施していることは、評価できる。現在の自治会加入率が維持できるよう、各自治会と連携し良い取り組みを共有するなど効果的な支援を行っていただきたい。

(4) まとめ

補助金交付事業の効果を上げるためには、当該事業に対する補助の必要性や、補助金の使途及び妥当性などについて常に検証を重ねることが求められる。今後も持続可能な財政運営を目指すためには各補助金について、成果に沿った取り組みとなるように、改善を図ることも必要である。

今回の補助金審査は、数ある補助金交付団体から 5 団体（6 補助金）を選定して実施したものであるが、今回審査の対象とならなかったし補助金に関しても、担当課が主体的となって補助金交付団体に対する適切な指導、助言に努めることで補助金交付の目的を達成できるよう望むものである。

2 評価内訳・・・・・・・・・・・・・・・・

『拡充』 1 件

・うるま市民生委員児童委員連絡協議会補助金

【改善の余地】

- ①（国や県へ無報酬制度の見直しを求める要請活動の検討）②（教育・研修の充実）
③（費用弁償の見直し検討）④（繰越金を委員へ還元検討）⑤（周知方法の検討）
⑥（連携を強化する）⑦（民生委員の課題を市として集約する）

『現状維持』 5件

・うるま市畜産共進会運営補助金

【改善の余地】

- ①（成果指標の検討）②（県外の肥育農家と繋げる）③（共進会の場の活用方法の検討）
④（広報活動の強化）⑤（他の祭りとの連携）】

・うるま市観光物産協会運営補助金

【改善の余地】

- ①（人材確保や育成）②（人材の定着）③（会議費の見直し検討）
④（会員を増やす取組検討）⑤（沖縄県との連携や県への補助金の要求検討）
⑥（効果を定量的に示す）】

・うるま市観光物産協会事業補助金

【改善の余地】

- ①（受託事業の在り方検討）②（ITの活用や自動化検討）③（成果の検証方法検討）
④（将来を見据えた戦略立案）⑤（人材育成・人材確保）

・うるま市老人クラブ活動促進補助金

【改善の余地】

- ①（他団体との交流）②（活動内容の検討）③（成果指標の検討）④（名称変更の検討）
⑤（支部の在り方検討）⑥（会費について）⑦（市として積極的に関与し連携を強化）

・うるま市与勝地下ダム土地改良区補助金

【改善の余地】

- ①（維持管理費用を抑える施策の検討）②（市、県、土地改良区の役割分担）
③（農地の特性を最大限生かす働きかけ）④（市として積極的に関与し連携を強化）
⑤（戦略的な誘致の推進）

『削減』 0件

『廃止』 0件

『再検討』 0件

第3 個別審査結果

うるま市民生委員児童委員連絡協議会補助金（福祉政策課）

補助事業の概要	地域福祉の推進を図ることを目的に、うるま市民生委員児童委員協議会の活動強化と当該民生委員・児童委員の資質向上に必要な経費に対し補助金を交付する。
令和5年度 補助金額	8,638 千円
補助金内訳（主なもの）	単位民児協活動費：5,993 千円、事業費関連：1,439 千円、負担金：611 千円（中部民児協議会費、県民児協会費等）

補助金額

☒ 拡充
 ☐ 現状維持
 ☐ 削減
 ☐ 廃止
 ☐ 再検討
 ※取り組み方針を踏まえ再検討

改善の余地

☐ 改善の余地なし（現行どおり）

☒ 改善の余地あり

①（国や県へ無報酬制度の見直しを求める要請活動の検討）②（教育・研修の充実）③（費用弁償の見直し検討）④（繰越金を委員へ還元検討）⑤（周知方法の検討）⑥（連携を強化する）⑦（民生委員の課題を市として集約する）

「うるま市民生委員児童委員連絡協議会補助金」の評価まとめ

◆総合評価

効率的な活動となるよう経費の優先順位をつけ精査した上で、委員へ研修等の新たな取組に対しては補助金額の増額を検討すること。民生委員児童委員の課題や問題の集約化など、市として連携を強化すること。また、国や県へ無報酬制度の見直しを求める要請活動を検討すること。

・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

民生委員児童委員については、全国的になり手不足が課題となっている。ボランティアとしての役割には限界があり、国や県へ報酬の支給に向けた制度の見直しを求める要請活動を検討されたい。また、委員の効率的な活動となるよう経費に優先順位をつけ、研修等新たな取り組みに対しては補助金額の増額を検討すること。併せて、物価高騰も勘案した費用弁償となるよう見直しを図り、繰越金を委員へ還元できる仕組みづくりについても検討されたい。

新たな民生委員児童委員の獲得に向けた取組として、活動内容について、幅広く周知する必要がある。例えば SNS 等での情報発信や子育て世代への周知として学校連絡アプリ「スクリレ」の活用など、学校現場と連携した取組みを市も一緒に考えていく必要がある。また、民生委員の選任について、現職の委員意見を汲み上げる仕組みも検討していただきたい。

現在活動している委員の課題や問題を集約し、解決することや他の委員との課題や問題の共有も必要である。民生委員児童委員協議会が独立した団体であることは理解するが、直接市民に関わることであり、市として補助金を出している以上積極的に関わりを持つべきである。また、地域福祉の中核的な存在である社会福祉協議会と連携し、各関係機関と民生委員を直接繋ぐ仕組みも検討していただきたい。

うるま市畜産共進会運営補助金（生産振興課）

補助事業の概要	うるま市の畜産業における生産振興を促進するため、畜産農家の生産技術向上並びに経営の合理化を図る交流の場として、うるま市畜産共進会実行委員会が主催する事業及び中部、県共進会への派遣事業等に対して補助金を交付する。
令和5年度 補助金額	1,940 千円
補助金内訳（主なもの）	事業費（子牛共進会、畜産共進会）：1,645 千円、事業費（中部・県共進会への派遣事業）：148 千円、事業費（研修事業）：20 千円、事務局費（通信費、消耗品等）：127 千円

補助金額

☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 削減 ☐ 廃止 ☐ 再検討 ※取り組み方針を踏まえ再検討

改善の余地

☐ 改善の余地なし（現行どおり）

☒ 改善の余地あり

- ①（成果指標の検討） ②（県外の肥育農家と繋げる仕組み） ③（共進会の場の活用方法の検討）
④（広報活動の強化） ⑤（他の祭りとの連携）

「うるま市畜産共進会運営補助金」の評価まとめ

◆総合評価

畜産共進会の開催が市の畜産業の発展において、効果的な活動となるように、具体的な成果が図れる成果指標を設定した上で活動内容や広報活動を見直すこと。

・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

畜産共進会を開催することで生産者に与える効果や影響について、具体的な成果が図れるような成果指標を検討していただきたい。例えば、共進会開催により、どれだけの牛が売れたかがわかる指標の設定や、畜産農家に入る収入などを成果指標としてはどうか。

担当課は、その成果をしっかりと把握した上で、畜産の課題解決に向けて、効果的な補助金の使い道となるよう、しっかりと精査していただきたい。

また、畜産農家の安定的な経営を見据えるとセリの価格に左右されないよう、大手のバイヤーや、県外の肥育農家と直接繋がるような仕組みも検討されたい。

今後は、生産技術向上だけでなく、更なる交流を推進し、畜産農家全体の経営改善やレベルアップに繋がるよう、運営方法や取り組み内容については、畜産農家の意見を取り入れながら検討していただきたい。また、うるま市の畜産業全体の振興に繋がるように、牛やヤギだけでなく、豚や鳥等、他の畜産業についても支援を検討していただきたい。

畜産農家の情報発信を強化することや市としての広報活動も必要ではないか。例えば、農林水産祭りや他の祭りと連携するなど様々なアイデアを取り入れ効果的な発信となるよう取り組んでいただきたい。

うるま市観光物産協会運営補助金（観光イベント課）

補助事業の概要	うるま市の観光物産に関する事業の振興を図り、観光産業の発展に寄与することを目的として、観光物産協会運営に必要な経費を補助する。
令和5年度 補助金額	36,470 千円
補助金内訳（主なもの）	人件費：28,100 千円、地代家賃：1,625 千円、リース費（車両、複合機他）：2,087 千円

補助金額

☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 削減 ☐ 廃止 ☐ 再検討 ※取り組み方針を踏まえ再検討

改善の余地

☐ 改善の余地なし（現行どおり）

☒ 改善の余地あり

①（人材確保や育成）②（人材の定着）③（会議費の見直し検討）④（会員を増やす取組検討）⑤（沖縄県との連携や県への補助金の要求検討）⑥（効果を定量的に示す）

「うるま市観光物産協会運営補助金」の評価まとめ

◆総合評価

観光物産協会が持続可能な形で運営できるように人材の確保や育成、人材を定着させる取組を検討すること。また、当該団体の取組が市の観光物産の振興に対して、どれだけの効果があったのか、その効果を定量的に示す工夫をこらすこと。

・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

観光物産協会は、地域の観光資源や物産品を扱うため、その魅力を最大限発揮する人材の確保や育成に注力すべきである。さらに、これらの人材が長期的に活躍し続けるためには、人材を定着させる取組も必要である。

また、当該団体の取組が市の観光物産の振興に対して、どれだけの効果があったのか、その効果を定量的に示す工夫も必要である。

団体内の人材やノウハウを活かした受託事業や自主事業を実施するために、市が積極的に連携を図ることが求められる。また、より効果的な補助金となるように、会議費などの削減可能な経費については見直しを検討するなど、効率的な運営となるよう市として働きかけていただきたい。

観光物産協会の会員増加に向けて、加入するメリットを目に見える形として、観光物産協会の HP 等で情報発信することや、会員向けの観光情報提供等、会員サービスを充実させる取組も検討していただきたい。

今後は、観光客や消費者が求めるニーズを的確に捉え、観光大使の効果的な活用も含めた戦略的なプロモーションを展開することが重要と考える。例えば、海中道路では、ウイングfoil等のマリンスポーツの人気が出ており全日本選手権大会も開催されていることから、連携した取り組みを実施するなど、さらに誘客に繋がるように、戦略立てた取り組みを検討していただきたい。また、沖縄県との観光連携や県への補助金の要求も検討し、うるま市の観光業が発展するよう取り組んでいただきたい。

うるま市観光物産協会事業補助金（観光イベント課）

補助事業の概要	うるま市の観光物産に関する事業の振興を図り、観光産業の発展に寄与することを目的として、観光物産協会運営に必要な経費を補助する。
令和5年度 補助金額	16,790 千円
補助金内訳（主なもの）	観光情報発信：8,690 千円、観光誘客プロモーション（出展）：7,000 千円、観光商品の調査・開発等：1,100 千円

補助金額	
☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 削減 ☐ 廃止 ☐ 再検討 ※取り組み方針を踏まえ再検討	
改善の余地	
☐ 改善の余地なし（現行どおり） ☒ 改善の余地あり ①（ 受託事業の在り方検討 ） ②（ IT の活用や自動化検討 ） ③（ 成果の検証方法検討 ） ④（ 将来を見据えた戦略立案 ） ⑤（ 人材育成・人材確保 ）	
「うるま市観光物産協会事業補助金」の評価まとめ	
◆総合評価 うるま市の観光の将来を見据えた戦略立案とそのための人材育成をすること。外注や自動化が可能なところは効率化を図り、観光物産協会がより重要な役割を果たせるように市として働きかけていただきたい。（事業の成果検証方法についても検討した上で効果的な事業とすること）	
・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等 限られた人材で運営するためには、取組内容について数値の成果が見られるものにはより注力し、成果が見られないものについては見直すことが必要である。 また、ロードパークや観光ターミナル等、IT の活用や自動化を検討することで効率的な運用ができないか。業務の中で外注できるところや設備的に投資するところは投資するなど、年間を通しての費用対効果の検証も必要と考える。 県外のイベントへ出店することで、うるま市の発信になることは理解するが、果たしてそれが誘客に繋がるかという懸念はある。成果の検証方法をしっかりと検討した上で、効果的な事業となっているか、他の効果的なやり方がないかも併せて検討していただきたい。 うるま市は、資源が豊富であることから、地域のお年寄りが案内するなど体験型の観光を実施することで、新たな観光客の誘客に繋がる可能性がある。 今後は、新たな観光資源の発掘など、うるま市の観光として何をアピールしていくのか、将来を見据えた戦略立案とそのための人材育成が必要である。観光物産協会が、市全体の観光や物産のプロモーションをする司令塔として、これまで以上に重要な役割を果たせるように市として働きかけていただきたい。また、人材確保の取組として、学生へのインターンシップも検討していただきたい。	

うるま市老人クラブ活動促進補助金（介護長寿課）

補助事業の概要	うるま市老人クラブ連合会に対して補助金を交付することで、単位老人クラブが行う事業の振興、高齢期の生活を豊かなものにするとともに、いきいきとした高齢社会の実現を図る。
令和5年度 補助金額	6, 257千円
補助金内訳（主なもの）	うるま市老人クラブ連合会（具志川、石川、勝連、与那城含む）：4,739千円 うるま市単位老人クラブの配分（44団体）：1,518千円

補助金額	
☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 削減 ☐ 廃止 ☐ 再検討 ※取り組み方針を踏まえ再検討	
改善の余地	
☐ 改善の余地なし（現行どおり） ☒ 改善の余地あり ①（他団体との交流） ②（活動内容の検討） ③（成果指標の検討） ④（名称変更の検討） ⑤（支部の在り方検討） ⑥（会費について） ⑦（市として積極的に関与し連携を強化）	
「うるま市老人クラブ活動促進補助金」の評価まとめ	
◆総合評価 新たな会員の獲得に繋がるよう他団体との交流や高齢者の生活を豊かにする活動を検討すること。また、事業振興を図る上で、市も積極的に関与し連携を強化すること。	
・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等 新たな会員の獲得に繋がるように、会員だけが楽しめる活動だけでなく、他団体との交流や世代間交流が深まる事業についても充実させていただきたい。例えば、学童クラブなど子供たちとの交流は、歴史、文化、の次世代への継承にも繋がり、また、コミュニケーションを取ることで、高齢者の生きがいや活力に繋がる効果的な手段と考える。 成果指標については、主にアンケートにより意向を確認している場合、どのような高齢者を対象とすることでより成果が見える化することができるか等、指標の取り方を工夫する必要がある。また、『老人クラブ』という名称についても参加者を引き寄せるような名称へと変更を検討していただきたい。 また、各老人クラブ支部に予算配分を行っているが、小規模の支部については、予算規模から事業が限定される。支部の合併も検討し、効率化を図ることで、質の高い事業や元気高齢者を増やす取り組みの充実が期待できるのではないか。一方でこれまでの地域の繋がりを維持する必要もあることから、それらを踏まえ支部の在り方については、担当課も一緒になり慎重に検討していただきたい。また、老人クラブの各支部の会費を一律にすることについても併せて考えていくべきである。 今後は、老人クラブを介して高齢者の健康寿命を延ばすだけでなく高齢者が活躍できる場を増やすことに繋げるためにも、運営を老人クラブ側に任せきりにするのではなく市として積極的に連携を強化し、サポートしていただきたい。	

うるま市与勝地下ダム土地改良区補助金（農林水産整備課）

補助事業の概要	土地改良事業により造成された土地改良施設の維持管理等に要する事務を行う団体にに対し予算の範囲内で補助金を交付する。
令和5年度 補助金額	9, 532千円
補助金内訳（主なもの）	職員給与：3,524千円、手当：1,124千円、維持管理費：3,222千円

補助金額	
☐ 拡充（ ☒ 現状維持 ☐ 削減 ☐ 廃止 ☐ 再検討 ※取り組み方針を踏まえ再検討	
改善の余地	
☐ 改善の余地なし（現行どおり） ☒ 改善の余地あり ①（維持管理費用を抑える施策の検討） ②（市、県、土地改良区の役割分担） ③（農地の特性を最大限生かす働きかけ） ④（市として積極的に関与し連携を強化） ⑤（戦略的な誘致の推進）	
「うるま市与勝地下ダム土地改良区補助金」の評価まとめ	
◆総合評価	
農業が産業として持続的に発展するように戦略立て、土地改良区との連携を強化すること。 今後設備の維持管理費用の増加が予想されることから、県や土地改良区との役割分担を明確にし、具体的な施策を検討すること。	
・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等	
当該補助金は、農業振興を図るうえで必要な補助金であると理解するが、今後設備等の耐用年数の経過に伴い維持管理費用が大幅に増加する懸念がある。補助金額についても増加が予想されることから、それを平準化する、または抑制する具体的な施策を検討すべきである。 また、メンテナンスや維持管理に必要な費用について、水使用料金のみで賄っていくことが難しいため、土地改良区、県、市の負担割合やそれぞれの役割分担を明確にするとともに、緊急対応時の積み立て等について事前協議を行う必要がある。 管理運営等は土地改良区に任せても良い部分はあると考えるが、農業振興のための働きかけは市も積極的に関与し連携を強化していただきたい。 今後は、新たな農業就業者の獲得や農地の拡張を目指していくためにも市と土地改良区の情報共有や連携の強化が必要である。水資源が豊富な土地で水を大量に必要とする農作物を生産する等、農地の特性を最大限活かせるよう休耕地についても県や農業委員会とも連携しての働きかけを検討していただきたい。 水が豊富にあることは、重要な資源である。市として戦略的に活用し、農業が産業として持続的に発展するために取り組んでいただきたい。	

◇付属資料

令和6年度 うるま市補助金審査委員会審査経過

日 程	事 項	内 容
5月16日（木）	第1回補助金審査委員会	補助金審査対象事業について
6月20日（木）	第2回補助金審査委員会	個別補助金について審査【1件】
7月18日（木）	第3回補助金審査委員会	個別補助金について審査【3件】
8月15日（木）	第4回補助金審査委員会	個別補助金について審査【2件】
9月19日（木）	第5回補助金審査委員会	補助金審査意見の総括【6件】 フォローアップ調査の確認【4件】
10月17日（木）	令和6年度補助金等に関する審査結果について	補助金審査結果を市へ報告

うるま市補助金審査委員会委員名簿

	区分	氏名	役割等
1	会長	さ と う まなぶ 佐藤 学	学識経験者
2	副会長	あらかき そうだい 新垣 壮大	
3	委員	いしかわ わたる 石川 航	
4	委員	う え ま そ の こ 上間 園子	
5	委員	かわかみ てつふみ 川上 哲史	
6	委員	くによし まさみつ 國吉 真充	
7	委員	ゆう た ノーマン裕太ウエイン	
8	委員	ひ が あつこ 比嘉 敦子	